



手城小だより

福山市立手城小学校
2025年(令和7年)
2月26日(水)

【学校教育目標】 自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成

児童会引継ぎ式 ～バトンを次へつなぐ～

2月20日(木)児童会引継ぎ式が行われました。「楽しい学校にしたい、元気な学校にしたい」と願い、たくさんの企画をし、協力しながら学校をリードした旧児童会役員でした。旧児童会役員(6年生)は、自分たちが取り組んだ活動内容(サーキット、的あて、外遊び、体力アップ、努力の木など)について振り返り、感謝を述べました。「あいさつ運動をしたけれど、まだまだあいさつが足りないと思う。あいさつのできる学校をめざして、活力ある学校になってほしい。」と新児童会役員(5年生)へエールを送り、旧役員から新役員へ児童会役員ノートが手渡されました。全校児童からは、これまでの感謝、そしてこれからの期待を込めて、大きな拍手が上がりました。



新役員は、会長の寺崎陽宗くん(左から3番目)、役員の(左から順に)大塚瀬那くん、木村紫乃さん、宇山琴乃さん、新谷まどかさん、大田黒莉心さんです。「あいさつのできる、仲よく元気な手城小学校をめざす」と抱負を語りました。新役員のみなさんには、学校のリーダーとしての活躍、一人一人の更なる成長にも期待しています。

ランランタイム ～走る楽しさを味わおう～



2月は元気な体作り、走る楽しさを味わうことを目標に大休憩に「ランランタイム」を行いました。ランランタイムでは2学年ずつ、曜日を交互に走ります。澄みきった青空の下で、子供たちは校庭を音楽に合わせて元気に走り出し、はじめての1周目はクラスで一緒に、2週目からは自分のペースで5分間走ります。走り終わった後は、ゆっくり歩いて息を整えます。まだ走りたい人は自主的に走っています。「かけ足ががんばりカード」の色塗りも楽しそうです。

薬物乱用と心身への影響を学ぶ



2月4日(火)6年生が麻薬取締官を講師にお招きして「薬物乱用と心身への影響について」学びました。大麻や覚せい剤などの薬物は、使用しているうちにやめられなくなる「依存性」と、乱用による幻覚、妄想に伴う自傷、他害の危険性があるという大きな特徴があります。「一度だけのつもりでいつの間にか薬物依存となり、一度しかない人生が取り返しのつかないものとなってしまいます。」「今、ネットなどで情報を目にし、人から誘われるなど薬物に触れる機会が身近にあります。薬物の誘いを避けるには、きっぱりと断りすぐのその場を立ち去ることが基本です。」と薬物の誘いを断るヒントについても話されました。

店頭で買うことのできる市販の風邪薬や咳止め薬にも、乱用目的で使用されるものがあります。市販薬は子供たちでも簡単に入手できるため、注意が必要です。また、エナジードリンクなどの過剰摂取も問題となっています。

薬物乱用防止教室などで、薬物乱用の現状や心身への弊害を身近な問題ととらえ、薬物の誘惑に対する対処法を身に付けてもらいたいと切に願います。

自分を大切に、人を大切に ～人権教室～



2月21日(金)に「人権の花」運動の感謝状贈呈式が行われました。2学期に、福山人権擁護委員協議会からヒヤシンス水栽培セットをいただき、2・3・4年生が水替えなど教室で協力し育ててきました。今では、きれいな花が咲き始め、教室にはヒヤシンスの香りが漂うようになりました。

感謝状贈呈式では、この運動を通じて、お互いを思いやる気持ちや命を大切にすることを学び、人権に対する理解を深め、子供たちの心にきれいな人権の花が咲いたことを感謝し、人権擁護委員の時岡真子様から感謝状と記念品が贈られ、4年生が代表して受け取りました。

手城小では、児童会や学級などで「いいところ見つけ」をし、友達にやさしくされたときや助けてもらったときの嬉しい気持ちを相手に伝えるようにしています。「ほめて、みとめて、はげます」ことが、優しい気持ちになったり、自信につながったりするのではないかと思います。